

来年度、高校日本史の全教科書に登場

「従軍慰安婦」問題

「教え方」模索中の教師

2時間使って感想文、視聴覚機利用……

来年度から使われる高校日本史の教科書すべてに登場した「従軍慰安婦」問題。検定をパスした教科書の中には、政府がまた公式に認めていない「強制連行」という表現を使つたものもあり、教室の方が、政治レベルに先行した格好だ。この重いテーマを、高校の現場ではどう教えていくのだろうか。すでに始まっている授業での取り組みや、社会科教師の反応を紹介する。

「現場は、教科書より一々と映し出されたのは、勇歩先を進んでいる。従軍慰安婦問題とは、板が立つ戦時中の中国の慰安婦問題で、すでに多くの教師が授業で取り上げ始め、教え方を模索している。『君たちと同時代の少女が、段階ではないか』と語るの、日本兵の相手をさせられた、ある都立商業高校の日本史教師(三六)だ。

この教師は今年一月、三年生の女子クラスで慰安婦問題を取り上げた。視聴覚教室の大型スクリーンに次

が言わなければ、従軍慰安



ソウル市内で抗議のデモを行う旧日本軍の従軍慰安婦と支持者たち(1992年)

これまで日本の若い世代も、無関心であったのではないが、歴史を知り、反省することなしには、アジアの人びととこれをしていくことはできないのではなかろうか。

▲韓国元従軍慰安婦のデモの写真が載せた教科書もある

教材、時間確保に悩み

婦という言葉を知らずにいたでしょう。『謝罪という言葉だけが宙に舞って、何に謝罪しているのかわからない。二度と過ちを起こさないという気持ちは本心に伝わるのでしょうか。女子生徒の一人は、卒業直前に書いたレポートでこんな感想を記したという。

ただ歴史の授業には、教科書の自身が膨大で、時間的に消化できない』という悩みが、教師側につきまとい、以前から授業でこの問題

校の教師三六は「手短かに説明するだけで精一杯。そのため生徒たちから、興味本位の反応が返ってくることをさえる」と漏らす。

「受験名門校」といわれる都立高の教師(三六)も、昨年、この問題を授業で初めて取り上げたが、「新聞やテレビの報道を引用して概略を話しただけ。時間の制約ばかりでなく、どんな教材を使つて、どう教えたらいいのかという根本的な悩みに悩まされた」と話す。

北海道・上士幌高校の山本政俊教諭(三六)は二年前、日本史の授業時間を九二分、今回取材した教師の中には、時間をひねり出すため、年間の授業を「ポルトガル人の来航から始める人や、『幕末』から教える例さえあった。

「強制連行」と記述／注釈だけで言及……

今回検定をパスした高校日本史の教科書は計九点(△三六、△六六)。すべて直接的表現を避けた教科書だが、従軍慰安婦問題に触れたが、記述の中身は社によって違いがある。

「強制連行」という言葉を唯一使った実教出版の「日本史B」は、『日本植民地下の朝鮮の人々』と題して二つを割き、日本軍の関与を示す公式記録が確認されたことや、宮沢首相が韓国の国会で謝罪の言葉を述べた

か、世界史や現代社会などの教科書でも扱われている。日本史では、従軍慰安婦を具体的に説明したものはなかったが、世界史Aのある教科書は、注釈の中で「日中戦争および太平洋戦争の時期に、旧日本軍の兵士の性的『慰安』のためにおかれた女性」と表現している。

従軍慰安婦問題は、このほ